

淀川水系ダム事業費等監理委員会資料

—大戸川ダム建設事業—

令和7年7月22日

近畿地方整備局 大戸川ダム工事事務所

1. 事業概要

1) 流域の概要

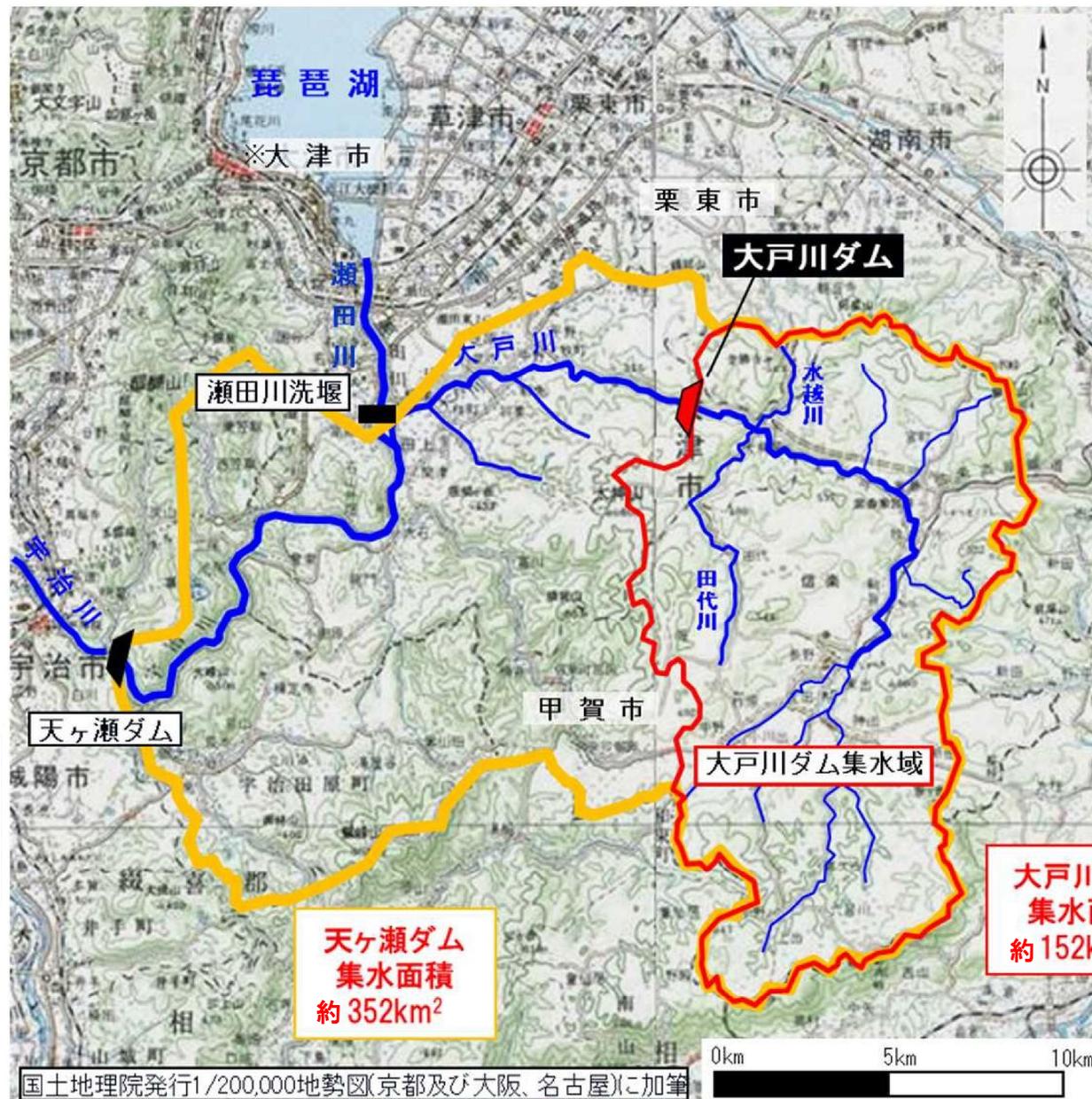
淀川水系 大戸川

流域面積：約190km²

流路延長：約38km

大戸川ダム

集水面積：約152km²



2) 事業の経緯

予備調査	昭和43年	予備調査着手
実施計画調査	昭和53年 4月	実施計画調査着手
建設	平成元年 5月	建設事業採択
	平成 3年 3月	特定多目的ダム法に基づく基本計画告示
	平成 4年10月	工事用道路着手
	平成 6年10月	大戸川ダム建設事業に伴う損失補償基準協定書の締結
	平成10年 3月	大鳥居地区（水没地）の移転完了
	平成11年 6月	付替県道大津信楽線着工
	平成13年 7月	水源地域対策特別措置法に基づく水源地域整備計画決定
	平成17年 7月	淀川水系5ダムについての方針公表
	平成19年 8月	淀川水系河川整備基本方針策定
	平成19年 8月	淀川水系河川整備計画原案公表
	平成19年12月	淀川水系河川整備計画原案における各ダムの概算事業費を公表（事業費：概ね1,080億円）
	平成21年 3月	淀川水系河川整備計画策定
	<p>大戸川ダムについては、利水の撤退等に伴い、<u>洪水調節目的専用の流水型ダムとするが、ダム本体工事については、中・上流部の河川改修の進捗状況とその影響を検証しながら実施時期を検討する。</u> また、これまで進捗してきた準備工事である県道大津信楽線の付替工事については、交通機能を確保できる必要最小限のルートとなるよう見直しを行うなど徹底的にコストを縮減した上で継続して実施する。</p>	
平成21年 7月	淀川水系ダム事業費等監理委員会 設立	
平成21年12月	ダム事業の検証に係る検討を開始	
平成23年 3月	特定多目的ダム法に基づく基本計画廃止	
平成28年 8月	ダム事業の検証における対応方針決定（事業継続、事業費：約1,163億円、工期：工事用道路着工から事業完了までに8年間程度を要する見込み、工事用道路着工までに調査設計等で4年間程度を要する見込み）	
令和 3年 8月	事業再評価における対応方針決定（事業継続、事業費：約1,163億円、工期：令和15年度末）	
令和 3年 8月	淀川水系河川整備計画変更	
<p>大戸川ダムについては、環境影響をできる限り回避・低減するための環境調査を含め、<u>必要な調査等を行ったうえで本体工事を実施する。</u> 事業の実施にあたっては、コスト縮減や負担の平準化に努める。</p>		
令和 5年 3月	付替県道大津信楽線完成	
令和 7年 4月	環境調査結果報告書公表	

3) 大戸川ダム建設事業の概要

場所 左岸：滋賀県大津市上田上牧町
 右岸：滋賀県大津市上田上桐生町

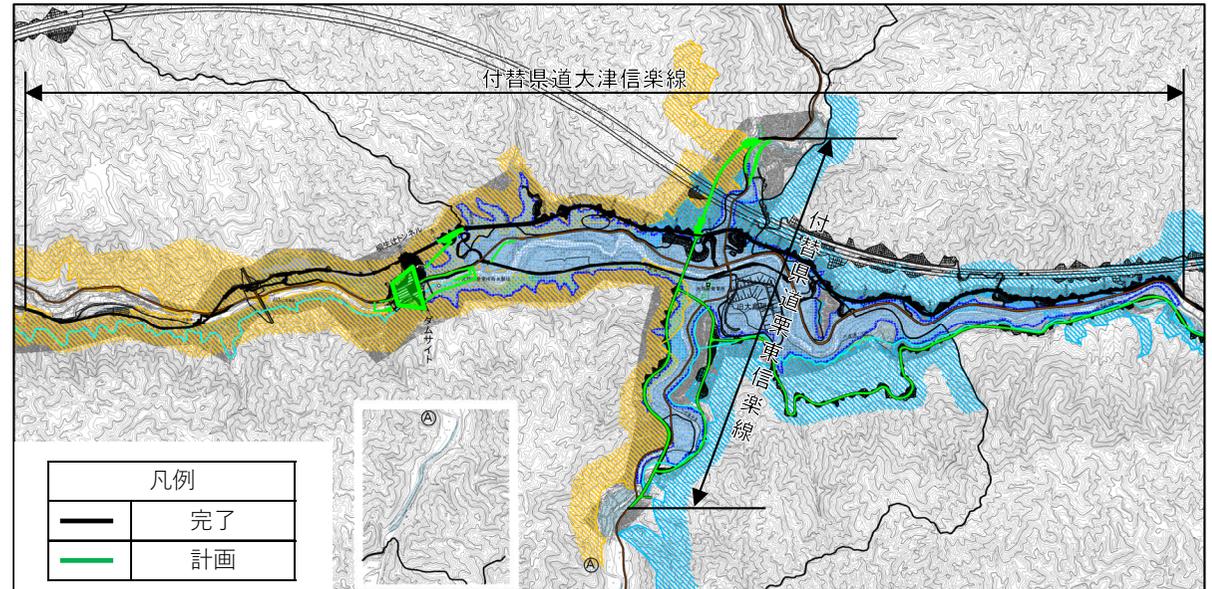
目的 洪水調節（大戸川、宇治川、淀川の洪水防御）

諸元 重力式コンクリートダム、高さ 約67.5m
 湛水面積 約1.2km²、集水面積 約152km²
 洪水調節容量 約21,900千m³

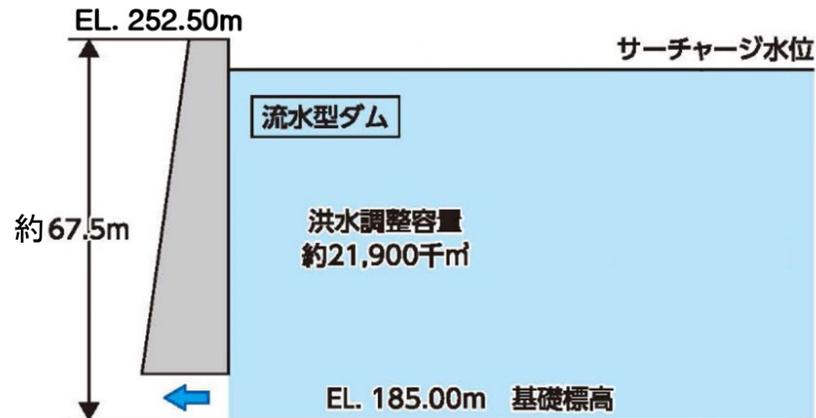
総事業費 約1163億円

工期 昭和53年度～令和15年度まで

事業計画平面図

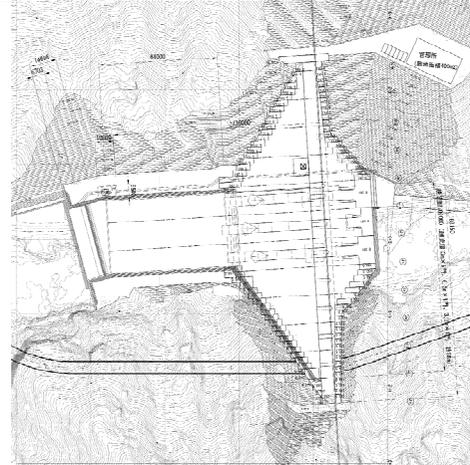


◆貯水池容量配分図

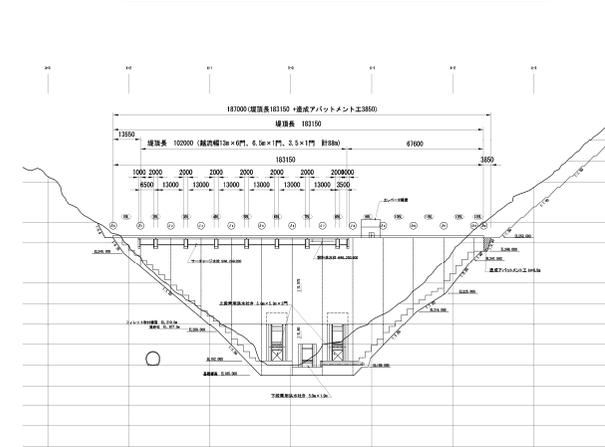


※大戸川ダムは、常時水を貯める必要のない洪水調節専用のダム（流水型ダム）である。
 ※諸元は現段階のものであり、今後の調査・設計の進捗により変更することがある。
 ※サーチャージ水位及び堆砂容量は精査中である。

ダム平面図（仮）



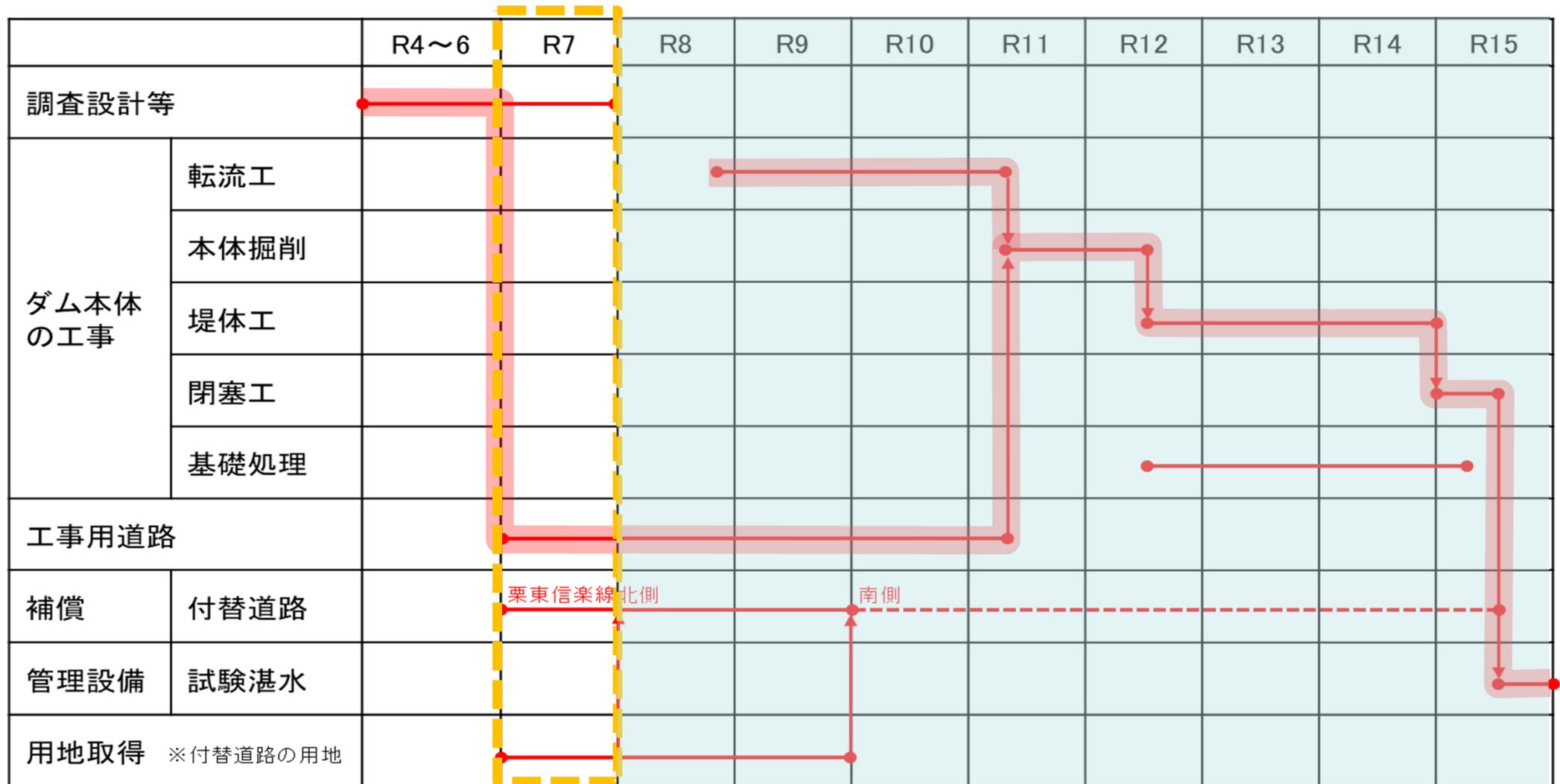
ダム上流面図（仮）



※現時点の案であり、今後の調査・設計等により変更する可能性があります。

2. 事業進捗状況

1) 事業工程



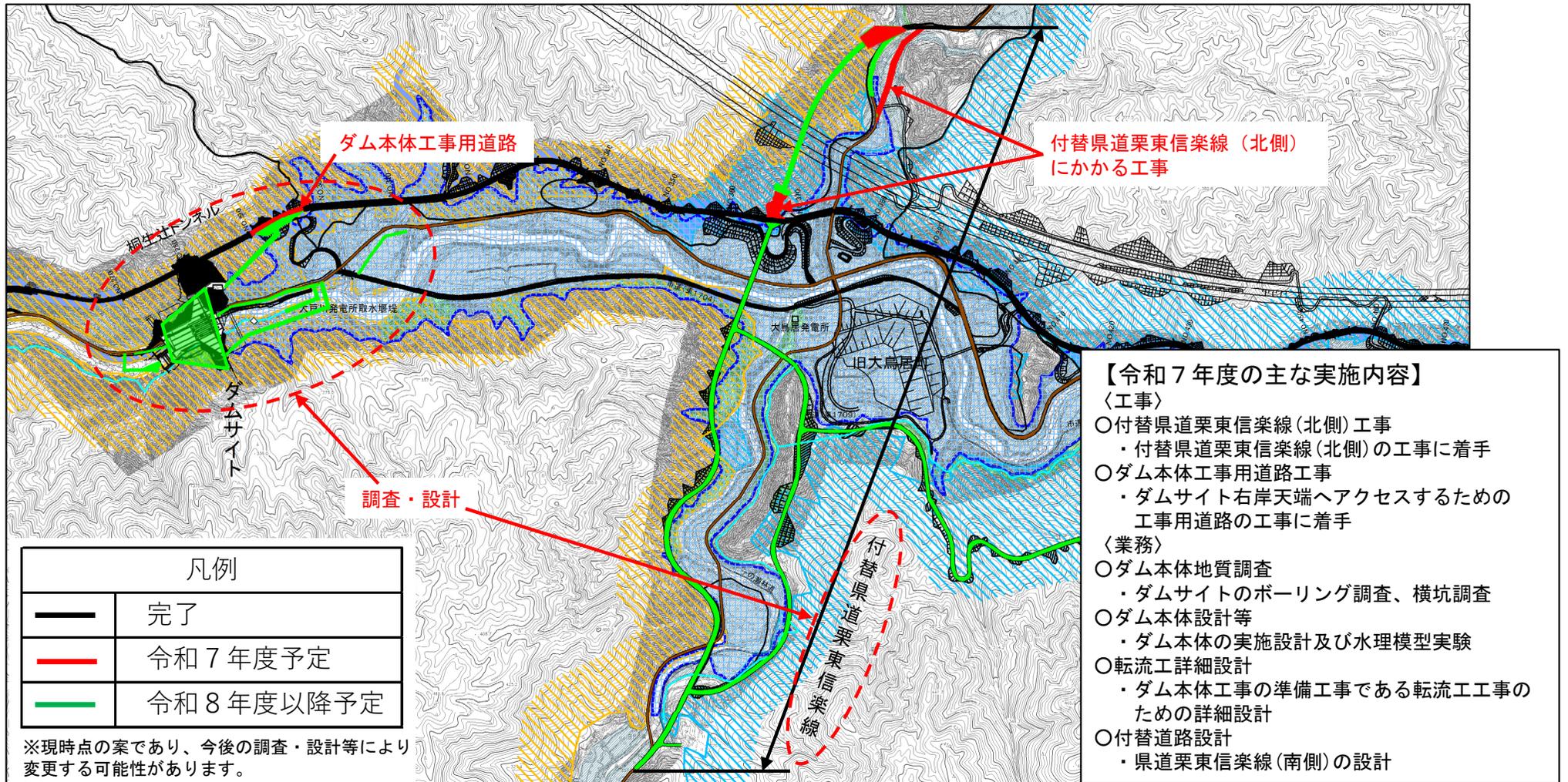
※現時点の案であり、今後の調査・設計等により変更する可能性があります。

2) 事業進捗率

令和7年3月末時点

用地取得 <small>※今後の調査・設計等により、取得面積に変更が生じる可能性がある</small>	民有地	100% (118ha) <small>※付替県道栗東信楽線等の付替ルートの検討により今後用地取得が必要となる見込み</small>
	国有地 (保安林)	約42% (19/45ha) <small>※ダム本体工事に必要な範囲は取得済みであり、未取得箇所は試験湛水開始までに取得予定。ただし、付替県道栗東信楽線等のルート検討により取得面積が変更となる場合がある。</small>
家屋移転		100% (55戸)
付替道路	県道大津信楽線	100% (7.1km)
	県道栗東信楽線 市道	0% ※付け替えルート等の検討を令和4年度より開始
ダム本体及び関連工事		0% ※ダム本体工事の実施に必要な調査・設計等を令和4年度より開始

3) 事業の進捗状況



大鳥居地区の移転完了 (平成10年3月)



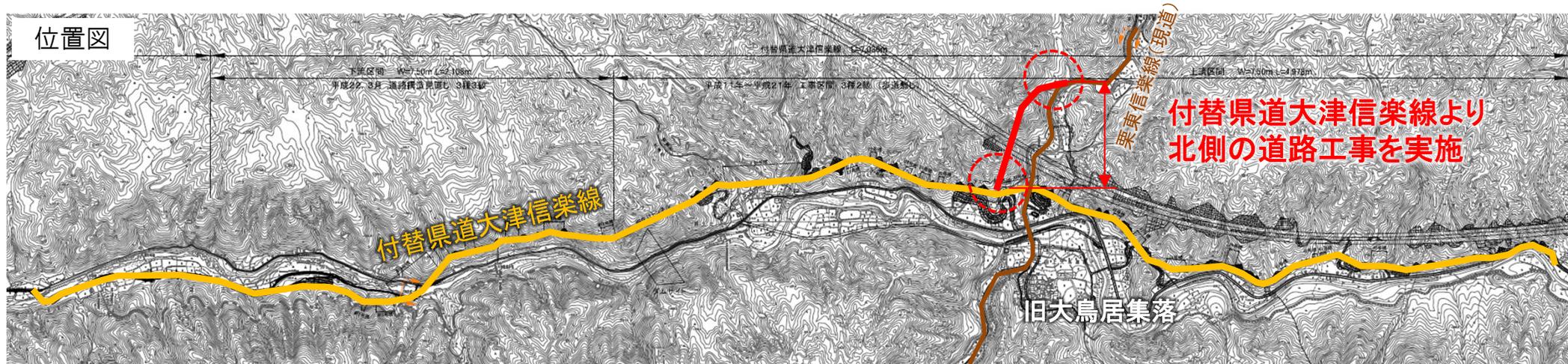
県道大津信楽線の付替完了 (令和5年3月)



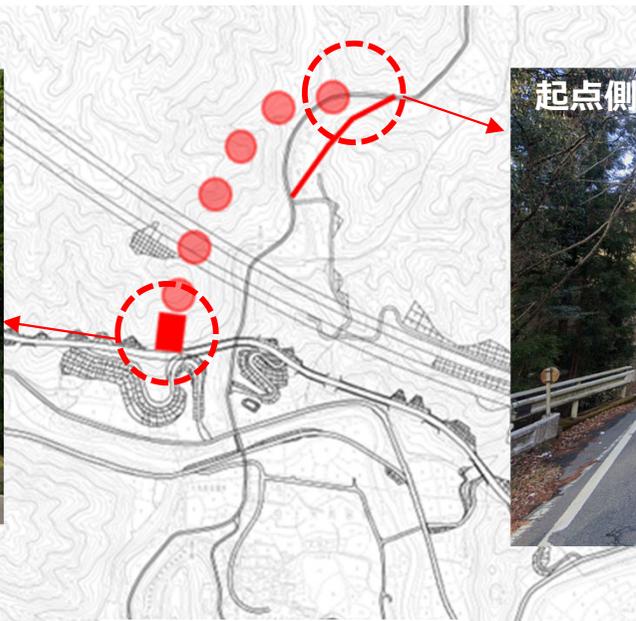
付替県道栗東信楽線（北側）工事

【主な実施内容】

- 令和6年度は、付替県道栗東信楽線（北側）の詳細設計を実施。
- 令和7年度は、付替県道栗東信楽線（北側）に工事着手。



付替県道大津信楽線



栗東信楽線（現道）

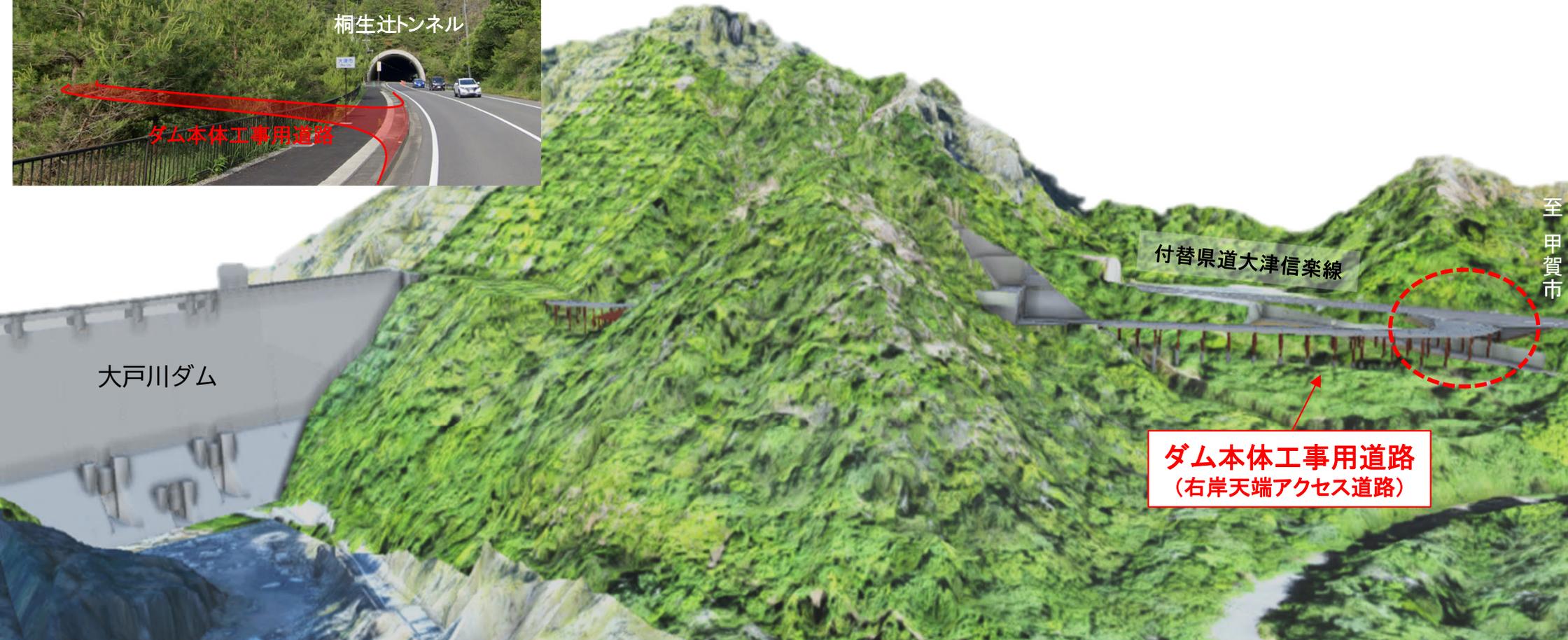
計画平面図

※現時点の案であり、今後の調査・設計等により変更する可能性があります。

ダム本体工事用道路工事

【主な実施内容】

- 令和6年度は、ダムサイト右岸天端へアクセスするための工事用道路の詳細設計を実施。
- 令和7年度は、ダムサイト右岸天端へアクセスするための工事用道路に工事着手。



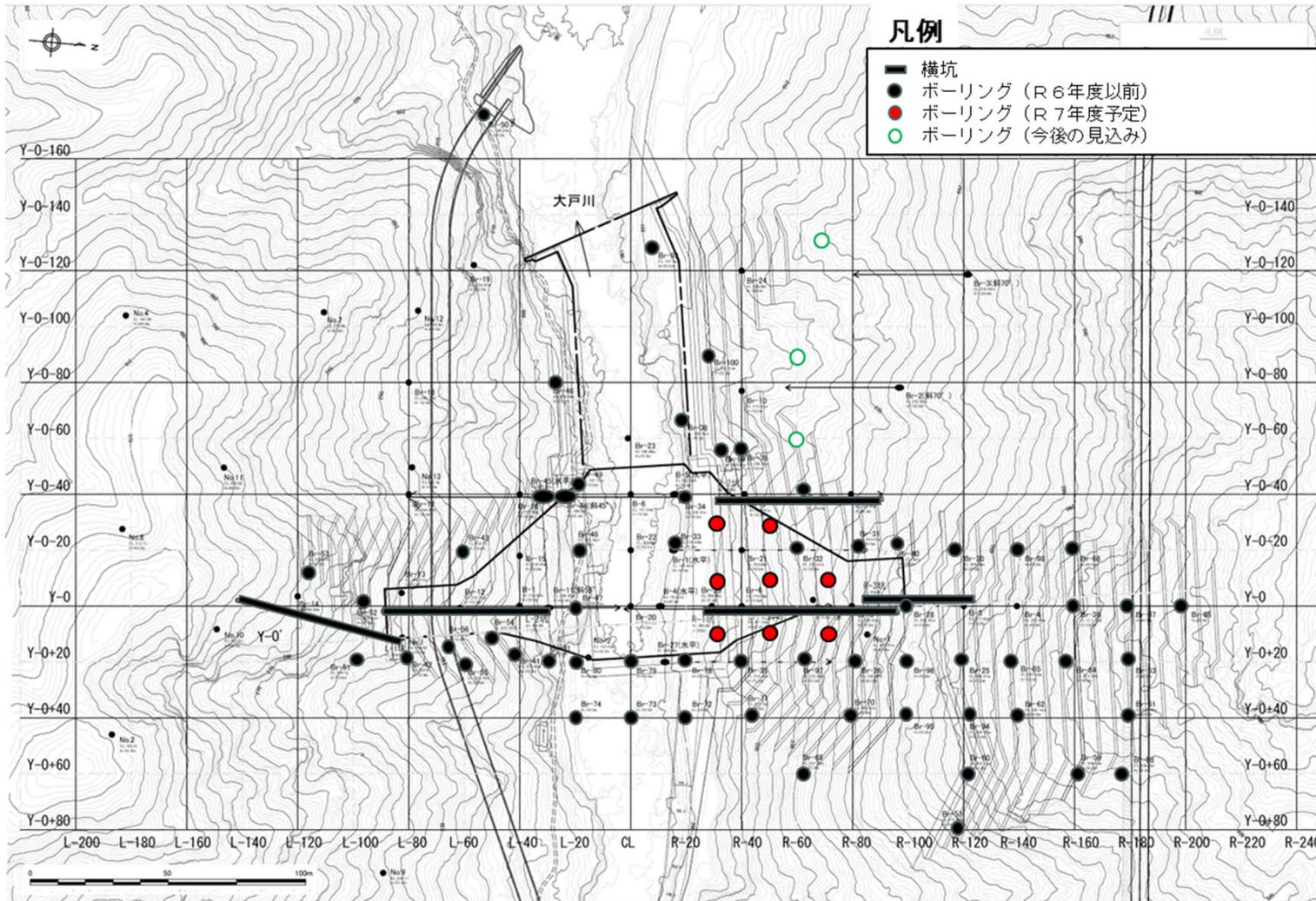
工事用道路イメージ

※現時点の計画であり、今後の調査・設計等により変更する可能性があります。

ダム本体地質調査

【主な実施内容】

- 令和6年度は、実施設計に必要となる32本のボーリング調査を実施。
- 令和7年度は、8本のボーリング調査と地質総合解析、横坑での地質調査や岩盤試験の実施を予定。
- 調査結果を踏まえ、残りのボーリングについても位置等について精査を行う予定。



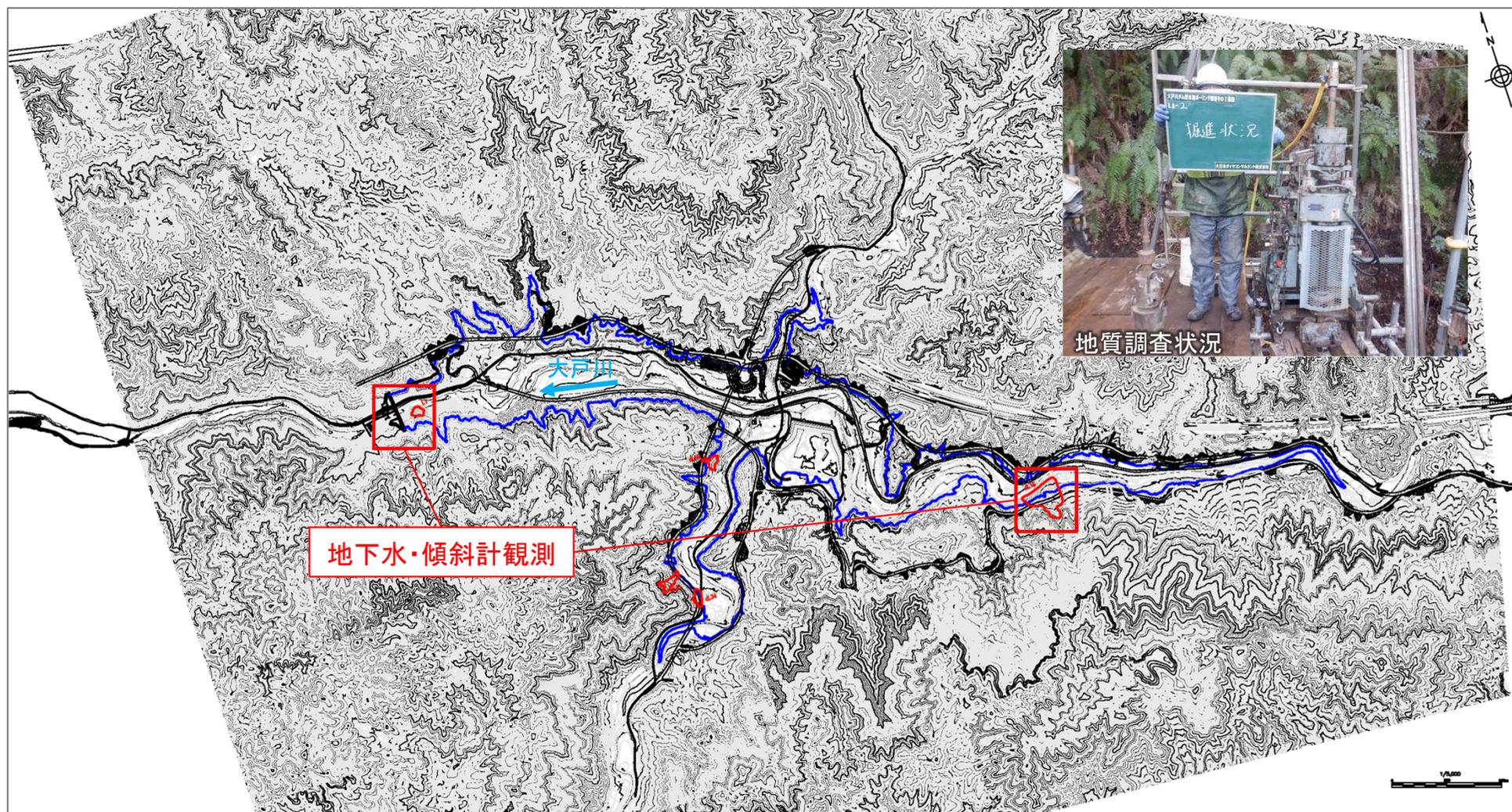
ボーリング 計画図

※現時点の案であり、今後の調査・設計等により変更する可能性があります。

貯水池周辺地質調査

【主な実施内容】

- 令和6年度は、対象の2箇所ではボーリング調査および安定解析を行った。解析の結果、現状に対する対策工は不要であることを確認したが、安定性については継続確認が必要であることから、地下水・傾斜計観測を今後継続して実施することとした。
- 令和7年度は、地下水・傾斜計観測を実施し、引き続き安定性確認を行う予定。

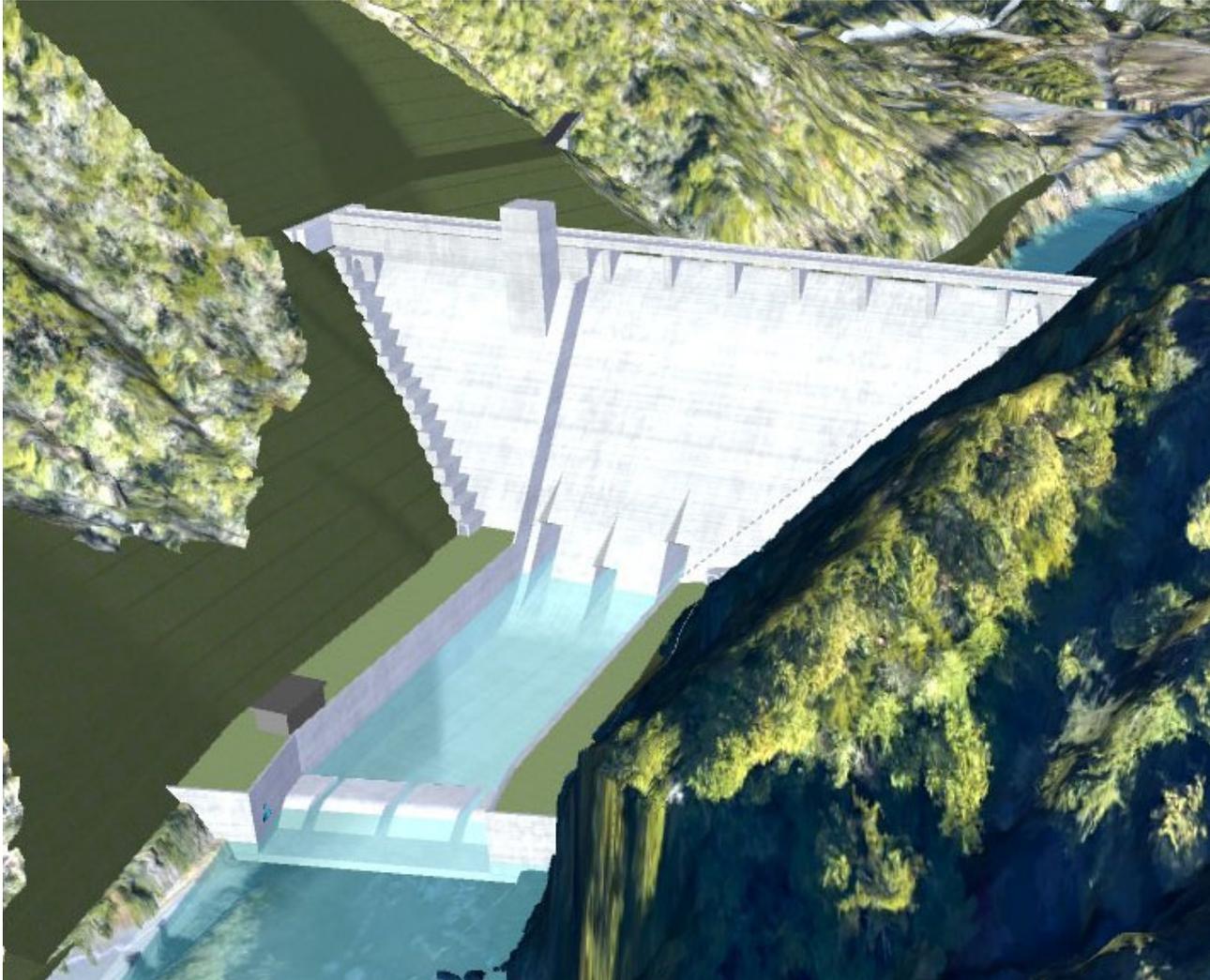


貯水池周辺の地質調査位置図

ダム本体設計等

【主な実施内容】

- 令和6年度は、ダム本体の実施設計及び水理模型実験等を実施。
- 令和7年度は、引き続きダム本体の実施設計及び水理模型実験等を実施予定。



ダム本体（概略設計段階CG）



水理模型実験状況

環境影響調査

【主な実施内容】

- 令和6年度は、環境への影響予測・評価を完了し、環境調査結果のとりまとめを実施。
- 令和7年度は、4月2日に、これまでに実施してきた調査や予測・評価の結果等を取りまとめた「大戸川ダム環境調査結果報告書」を公表した。今後は、報告書に基づき、環境保全措置実施計画およびモニタリング計画を作成する予定。

R7. 4. 2記者発表「大戸川ダム環境調査結果報告書」公表

国土交通省 近畿地方整備局
Ministry of Land, Infrastructure, Transport and Tourism. Kinki Regional Development Bureau

いのちとくらしをまもる 防災減災

令和7年4月2日 14時00分
近畿地方整備局
大戸川ダム工事事務所

「大戸川ダム環境調査結果報告書」を作成しました

大戸川ダム工事事務所では、大戸川ダム建設事業による影響や環境保全措置等の検討を進めていくための予測及び評価を実施してきたところです。
今回、これまでに実施してきた調査や予測・評価の結果等を取りまとめた「大戸川ダム環境調査結果報告書」(以下、「報告書」)を作成しましたので、公表します。また、公表と合わせて、報告書の縦覧も実施します。
なお、報告書については、これまでにいただいた住民意見、自治体意見や、3月28日に開催した「第4回大戸川ダム環境保全委員会」等で、学識者等からいただいたご意見を踏まえて作成しています。
今後、作成した報告書に基づき、環境保全措置等を適切に講じながら、大戸川ダム建設事業を進めてまいります。

※作成した報告書は、大戸川ダム工事事務所WEBサイト(<https://www.kkr.mlit.go.jp/daido/gaiyo/about/env-commit.html>)、及び別紙記載の縦覧場所において閲覧できます。

【縦覧期間】令和7年4月7日(月)～令和7年5月6日(火)まで
※縦覧に関する詳細は、別紙を参照してください。

<取扱い> _____

<配布場所> 近畿建設記者クラブ、大手前記者クラブ、滋賀県政記者クラブ

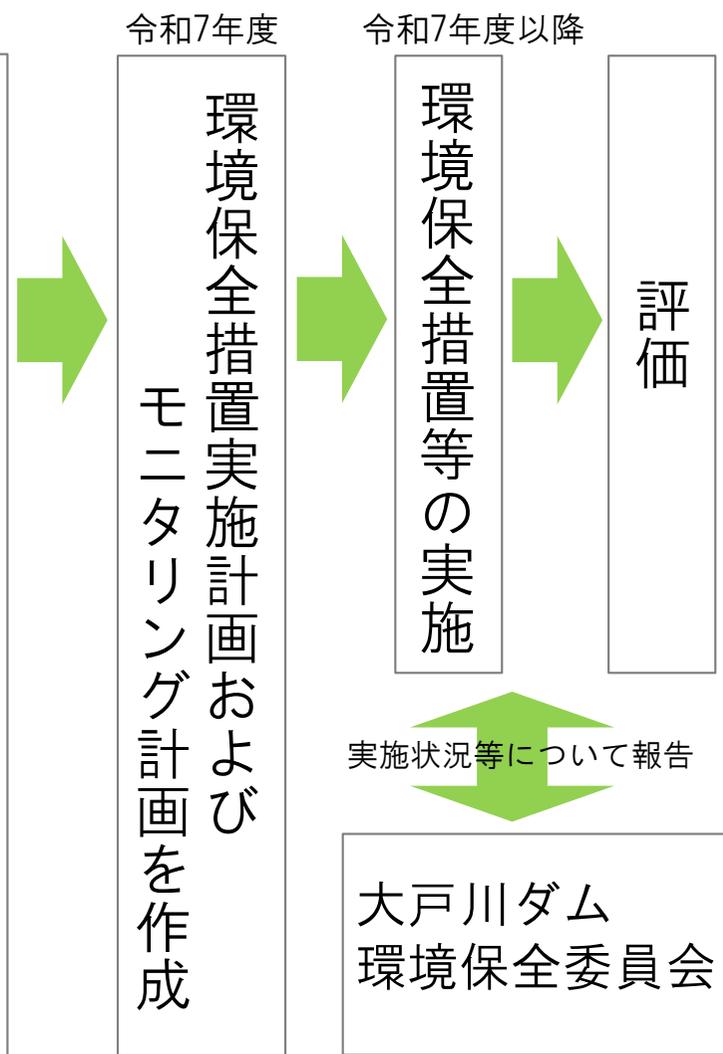
<問合せ先>
国土交通省 近畿地方整備局 大戸川ダム工事事務所
副所長 北川 真一 (内線204)
調査設計課長 田尻 一朗 (内線351)
電話 077-545-5675(代表)

本資料には、重要な種等に指定・措置されている動植物の生息・生育箇所等が具体的に特定できる情報が含まれており、公にすることにより乱獲・盗掘のおそれがあり、当該動植物の保護に支障を及ぼすおそれがあることから、該当箇所については非公開としています。

大戸川ダム環境調査結果報告書

令和7年4月

国土交通省近畿地方整備局
大戸川ダム工事事務所



報告書URL : <https://www.kkr.mlit.go.jp/daido/gaiyo/about/env-commit/kankyouchousa-kekka-houkokusho.html>

4. 前回委員会における指摘事項と対応状況

- 放流設備の構成については、河床部の放流設備や通砂など流水型ダムとしての特徴に加え、維持管理性も考慮の上、最適配置となるよう検討を行うこと。

⇒令和6年度からの水理模型実験により、放流設備の配置を計画しており、引き続き今年度中に排砂機能の確認や流木捕捉施設の検討を加え、最適配置を確立予定。
- 基礎処理については、地質情報を十分に精査し、流水型ダムとして必要な遮水性や安定性を考慮の上、工事工程に影響が生じない時期までに必要な検討を行うこと。

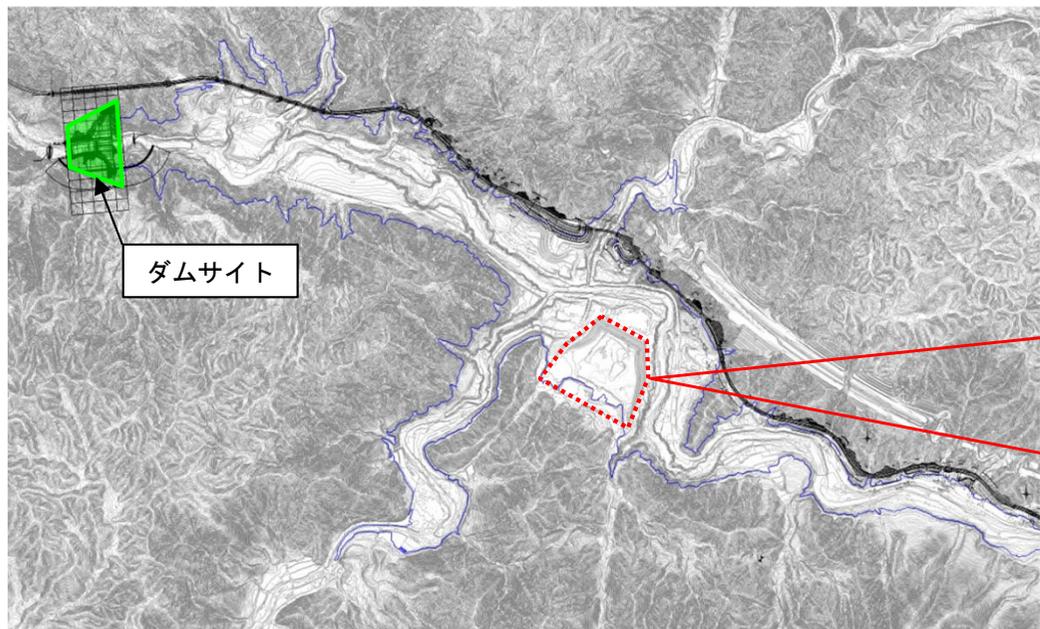
⇒今後実施する地質調査・地質解析を踏まえ、流水型ダムの特徴を踏まえた基礎処理の合理化検討などによるコスト縮減および工程監理に努める。
- 地質の不確定要素を可能な限り排除できるよう、必要な調査を実施すること。

⇒地質調査・地質解析など必要な調査を適切に行い、施工段階での地質に起因するリスクを可能な限り低減し、工事を進めて参りたい。

5. コスト縮減

【大鳥居地区仮置き掘削ずりの活用検討】

- 大鳥居地区に仮置きしている新名神高速道路のトンネル工事等から発生した掘削ずりをダム本体コンクリート用の骨材として活用するための骨材試験を行い、ダム本体コンクリート約21万m³のうち、約17万m³は使用可能であり、約5億円のコスト縮減となる見込みである。
- 引き続き、仮置き掘削ずりの骨材としての適用範囲拡大のための検討を実施する。



仮置き場の位置図



※現時点の計画であり、今後の調査・設計等により変更する可能性があります。

現地から採取した掘削ずりを骨材サイズまで砕いて試験を実施し、再利用可能であることを確認 14